

環境経営レポート

対象期間：2024年6月～2025年5月

発行日：2025年7月24日

株式会社ハイシステム

目次

I.環境経営方針	3
II.事業の概要	4
III.環境経営目標及び実績・評価	7
IV.環境目標計画	7
V.次年度の環境経営計画	7
VI.環境関連法規への違反、訴訟の有無	8
VII.代表者による全体評価と見直しの結果	8

I.環境経営方針

株式会社ハイシステム 環境方針

I 基本理念

株式会社ハイシステムは、地球環境問題が人類にとって重要な課題であり、環境ビジネスに携わる事業者として、積極的にこの問題の改善に取組むことが当社の重要な責務の一つであると深く認識し、環境に配慮した企業活動を広く推進し、地球環境・地域環境の改善、資源循環型社会の形成に貢献します。

II 環境方針

1. 環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境保護及び汚染の予防に努めます。
2. 当社に適用される環境関連の法令・条例・協定等を遵守します。
3. 当社の事業活動における環境側面、環境影響を的確に把握、評価し、環境目的・目標を設定し、その実現を図ります。
4. 事業活動において、以下の活動を推進します。
 - ① 収集運搬作業の円滑な業務を継続する為、事故防止に努めます
 - ② 委託された廃棄物の収集運搬及び処分を安全かつ適正に行います。
 - ③ 資源のリサイクルを促進します。

この環境方針は全社員に周知するとともに、社外にも公表します。

2019年6月3日

株式会社ハイシステム

代表取締役 宇藤雄一

II.事業の概要

1. 事業者

株式会社ハイシステム

代表取締役社長 宇藤 雄一

2. 所在地

■本社

東京都板橋区坂下3丁目4番1号

■中間処理場

東京都板橋区新河岸2丁目2番16号

3. 環境管理責任者及び連絡先

取締役 黒澤 ひとみ Mail: h_uto@hi-system.co.jp

4. 事業所の規模

従業員数 41人 (2025年5月末時点)

法人設立年月日 1953年6月15日

資本金 1,000万円

売上高 1,892,443,377円

5. 事業内容

特別管理産業廃棄物・一般廃棄物・産業廃棄物の収集運搬

機密書類の廃棄

リサイクル業務

公園清掃業務

上記に付帯する一切の業務

6. 廃棄物の収集運搬量・処分量

●受託した産業廃棄物・その他の運搬量・処分量

7. 一般廃棄物収集運搬業・処分業

●収集運搬業

●一般廃棄物処理施設許可（処理業）

8. 産業廃棄物収集運搬業・処分業許可

●収集運搬業

●処分業 処分の方法

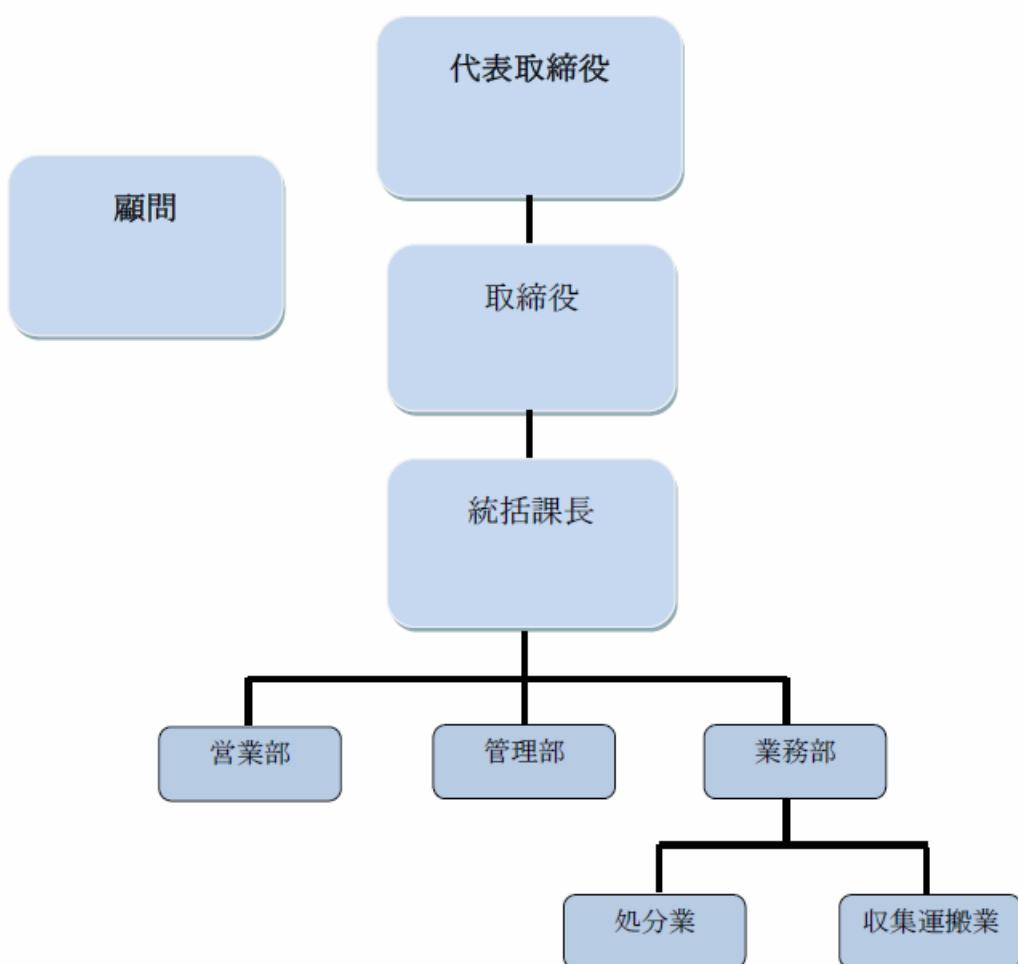
9. 車両一覧

許可車両一覧表

	車体の形状	車両番号	積載量	備考
1	バン	練馬480 く 6889	0.35 t	保冷車
2	バン	練馬100 す 7115	2.00 t	保冷車
3	バン	練馬100 す 7263	1.50 t	保冷車
4	バン	練馬100 す 6927	1.75 t	保冷車
5	バン	練馬100 さ 7660	2.00 t	保冷車
6	バン	練馬100 さ 8400	2.00 t	保冷車
7	バン	練馬100 す 3389	3.25 t	保冷車
8	バン	練馬100 す 6315	3.80 t	保冷車
9	バン	練馬100 す 6345	2.00 t	保冷車
10	バン	練馬100 す 7606	3.00 t	保冷車
11	バン	練馬100 す 8351	2.65 t	保冷車
12	バン	板橋100 さ 39	1.75 t	保冷車
13	バン	板橋100 さ 68	2.00 t	保冷車
14	バン	板橋100 さ 188	2.90 t	保冷車
15	バン	板橋100 さ 206	3.30 t	保冷車
16	バン	板橋100 さ 220	1.35 t	保冷車
17	バン	板橋100 さ 390	2.45 t	保冷車
18	バン	板橋100 さ 403	3.00 t	保冷車
19	キャブオーバー	練馬100 す 6719	3.00 t	平ボディー
20	キャブオーバー	板橋110 さ 2024	3.00 t	平ボディ電気自動車
21	座芥車	板橋800 さ 457	2.55 t	パッカー車
22	座芥車	板橋800 さ 291	2.55 t	パッカー車
23	座芥車	練馬800 す 7141	2.80 t	パッカー車
24	座芥車	板橋800 さ 209	2.75 t	パッカー車
25	座芥車	板橋800 さ 566	2.45 t	パッカー車
26	座芥車	板橋800 さ 369	2.00 t	パッカー車
27	座芥車	練馬800 せ 283	2.80 t	パッカー車
28	脱着装置付 コンテナ専用車	板橋100 さ 192	3.80 t	アームロール
29	脱着装置付 コンテナ専用車	練馬100 す 5589	3.80 t	アームロール
30	脱着装置付 コンテナ専用車	練馬100 す 8027	3.65 t	コンテナ車

一般廃棄物許可車両 (東京都23区/14台 さいたま市/1台)						
1	塵芥車	練馬 800	せ	2688	2.90	t バッカー車
2	塵芥車	板橋800	さ	184	2.00	t バッカー車
3	塵芥車	板橋 800	さ	543	2.85	t バッカー車
4	塵芥車	板橋 800	さ	19	2.95	t バッカー車
5	塵芥車	板橋 800	さ	112	2.90	t バッカー車
6	塵芥車	板橋 800	さ	116	2.75	t バッカー車
7	塵芥車	板橋 800	さ	205	2.00	t バッカー車
8	塵芥車	板橋 800	さ	623	3.25	t バッカー車
9	塵芥車	板橋 800	さ	624	2.75	t バッカー車
10	パン	練馬 480	け	6370	0.35	t
11	パン	練馬 480	け	6371	0.35	t
12	パン	練馬 480	け	9266	0.35	t
13	パン	練馬 480	け	9267	0.35	t
14	ダンブ	板橋480	あ	1953	0.35	t
15	ダンブ	板橋480	あ	1986	0.35	t
16	塵芥車	板橋 800	さ	161	2.00	t バッカー車

10. 組織図



III.環境経営目標及び実績・評価

NO.	行動目標	実施事項	必要な資源	責任者	達成期限	結果の評価方法	実施事項計画		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
							実施結果	実施事項計画	部門ミーティングの実績												
1	社内ルールを徹底させる	部門ミーティングの実施	交替わり当番表	黒沢	5月	チェック項目の実現率100%	実施結果	実施事項計画	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
2	紙の削減及び紙とデータの混在を減らすことで作業負担を無くす	お客様への提案	電子マニフェスト	黒沢	5月	電子マニフェストの対応件数を5件増やす。	実施結果	実施事項計画	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
3	顧客の信頼を損なわない。	・毎週建物の所在を確認し、月末に管理責任者へ報告を行う	鍵の管理表	黒沢	5月	自動車・客先・鍵管理の実施	実施結果	実施事項計画	リクエストの入力・回収ルートの登録	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	承認済	
												リスク所有者の承認		承認済		(目的達成結果へ)		作成			
												宇澤	宇澤	黒沢	6月6日	6月6日	2024年5月29日				

IV.環境経営計画

期間は 2024 年 6 月～2025 年 5 月

項目	手段
電力	不在時消灯、休憩時間の消灯、エアコン温度・運転の適性管理、廊下やトイレの不必要的伝統の消灯、ウォームビズの導入、クールビズの導入、複合機の稼働停止、PC の省エネ設定など
軽油	急発進、急停止をしない エコドライブの徹底 効率的な運転計画 など
水	節水を心がける など
製品・サービス	収集運搬の効率化の推進、受託した産業廃棄物の再資源化の推進、最終処分量の削減 など
製品・サービス 環境性能の向上	収集運搬の効率化の推進、受託した産業廃棄物の再資源化の推進、最終処分量の削減 など

V.次年度の環境目標計画

引き続き、前年度の目標を推進する。

VI.環境関連法規への違反、訴訟等の有無

1. 当社に関連する法規

- ① 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ② 板橋区廃棄物の発生抑制、再利用の促進及び適正な処理に関する条例
- ③ 千葉県廃棄物の処理の適正化等に関する条例
- ④ 自動車NOx・PM法
- ⑤ 東京都環境確保条例
- ⑥ 東京都廃棄物条例
- ⑦ 道路運送車両法
- ⑧ 廃プラスチック類の埋立ゼロに関する協定
- ⑨ 家電リサイクル法
- ⑩ 東京における産業廃棄物処理業者の適正処理・資源化の取組に係る優良性基準適合認定制度
- ⑪ 消防法
- ⑫ 貨物自動車運送事業法
- ⑬ 貨物自動車運送事業輸送安全規則
- ⑭ 道路交通法
- ⑮ フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
- ⑯ 水銀廃棄物ガイドライン
- ⑰ プラスチック資源循環促進法

2. 違反・訴訟等

過去3年間に一度も上記の法規に違反、訴訟はありません。

VII.代表者による全体評価と見直しの結果

当社のマネジメントシステムについて、マネジメントレビューを実施した

結果、引き続き適切、妥当かつ有効に運用されていることを確認しました。また、継続的改善の機会として、会社の方向性を全従業員が共通認識として理解し、周知徹底を図ることが重要であると判断しました。これにより、組織全体の一体感を高め、環境目標の達成に向けた取り組みをさらに強化してまいります。

現時点では、マネジメントシステムの変更や資源の追加は必要ないと判断しておりますが、今後も継続的に目標達成のための活動を行い、必要に応じて適切な処置を講じてまいります。

また、他の事業プロセスへのマネジメントシステムの統合に関しては、現時点で特段の改善の必要性は認められませんでしたが、引き続き状況を注視してまいります。

最後に、当社の戦略的な方向性については、全従業員が共通認識を持つことが重要であると再認識しました。これを踏まえ、今後も環境活動を推進し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。